

都市祭礼と神事としての佐原の大祭

ー変貌する町とイベントー

本研究は千葉県香取市の佐原の大祭を対象するものである。

江戸時代の利根川東遷事業のため、佐原は物資の集散地となった。酒や醤油の原料となる穀物が集まっていたため、17世紀の終わりから醸造業が発展し始めた。その結果、佐原は河港商業都市として栄えた地域であった。

佐原は「小江戸」と呼ばれる街並みが1996年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。テレビ・映画のロケ地として使われることは年々増えていて、その数は100件以上となっている。マスコミを通して観光客を増やすための宣伝する一つの方法であると言える。

佐原を流れる小野川を境にして、東岸部を本宿、西岸部を新宿と称している。本宿と新宿にそれぞれの総鎮守があり、本宿には八坂神社（本来は牛頭天王社）、新宿には諏訪神社がある。7月10日以降の金曜・土曜・日曜日の3日間の日程で行われる八坂神社祇園祭と、10月の第2土曜を中日とする金曜・土曜・日曜日の3日間の日程で行われる諏訪神社秋祭りを「佐原の大祭」と称している。

両神社の祭礼とも、神輿中心の祭りから付け祭りである山車行事中心の形に変化したと言えるだろう。佐原の大祭の際、町ごとに四輪で二層構造の山車が出されている。山車は上層部に江戸職人によって作成された大人形が載せられている。2004年に「佐原の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定され、2016年にユネスコ世界無形文化遺産に登録された。

本研究は、それぞれの祭りの発展や現在の流れを扱うものである。研究方法として、調査者は2019年に本川岸という小野川の東側に位置する町内のメンバーとして佐原の大祭に参加し、聞き取り調査と参与観察のフィールドワークを行った。祇園祭という祭礼および山車行事の観察を通じて、本川岸の山車の紹介、祭礼に際しての山車のコースや山車の廻し方を説明し、さらに祭礼の最終日に行われる神輿巡行と浜下りという行事の江戸前期と現在の様子を比較するものである。その他、2019年に新宿の秋祭りの際に行ったフィールドワークを通して、台風の上陸前の祭礼のイレギュラーな様子と即位の礼奉祝山車引き廻しも観察できた。

以上、佐原の大祭を都市祭礼と祭事として扱うものである。祇園祭や神輿巡行などといった祭事の説明と変貌する町のその行事への影響に焦点を当てる。観光化という過程も取り上げる。